

日本高専学会 2023年度 第4回理事会 議事次第

日 時 2024年2月17日(土) 13時00分～ 16時30分

場 所 オンライン会議

出席者：会長 山下哲(木更津高専)

理事 宇野宏司(神戸高専)、梶間由幸(米子高専)、江原史朗(宇部高専)、北野健一(大阪公大高専)、鈴木昌一(鈴鹿高専)、土井智晴(大阪公大高専)、吉本弥生(石川高専)

欠席者：出口智昭(有明高専)、船島洋紀(近大高専)、松本高志(阿南高専)

1. 会長あいさつ

JACT2030の検討状況について説明があった。

2. 学会誌編集委員会

学会誌29巻2号および4号の準備状況について説明があった。29巻2号では特集テーマ：海外展開、海外校との交流について、執筆依頼に関する情報交換を行なった。

3. 論文審査委員会

査読状況について説明があった。論文に受付日を付記する際の書式について、現在の和暦表記よりも西暦表記が良いのではと提案があり、審議の結果、西暦表記に変更することとなった。論文サンプルファイルの変更を行う。

4. 表彰選考委員会

研究奨励賞の審査結果について報告があった。最優秀賞1件、優秀賞3件の表彰を行うことを確認した。活動奨励賞の公募、審査スケジュールについて確認した。

5. 企画委員会

6月1日に実施するシンポジウムの内容について確認した。来年度の研究助成について応募が2件であったことから、審査方法について採点形式から妥当性を審査する形に変更することとした。審査委員について、申請に関わる委員を審査委員から外し、申請に関係の無い理事の中から新たな審査委員を選出し審査を行うこととした。2年連続で応募が少なかったことから、このまま研究助成を続けるべきか意見交換を行なった。助成制度が始まったばかりで認知度も低く、実施方法の変更などの試みも行なっていないことから、助成制度を継続することを確認した。チラシを作成して年会講演会で配布するなどの試みを行なっていく。

6. 財務委員会

会計状況について報告があった。2023年度が終了することから、各委員会で決算し返金をするよう依頼があった。

7. 年会実行委員会

年会講演会実施形態、日程、役割分担、投稿料等について審議を行なった。国立高専でUSBメモリを業務で使用できない高専があることから、講演概要集をUSBメモリで配布することを原

則止めて、参加者にデータをダウンロードしてもらう形に変更する。また年会講演会当日に会場にUSBメモリを使用できるか、会場校の函館高専に確認する。2023年の年会で学生の口頭発表のテーマについて申し込み間違いがあったことから、発表募集セッションについて、学生発表と一般（学生以外）発表で分離して募集を行うこととした。年会2日目に情報交換会を実施することを確認した。会場について引き続き検討していく。

年会について、今回の理事会で決まっていなかったことから、3月26日にオンライン形式で臨時の理事会を実施し、最終確認を行う。